

去る8月20日、奈良教育大学の佐川早季子先生をお招きし、「論文執筆の取り組み」について、ご講和いただきました。先生が博士論文を完成させるまでには、リサーチクエスションが決まるまでの「産みの苦しき期」、研究・分析方法が決まるまでの「藁をもつかむ期」、論文執筆の「見よう見まね期」など、さまざまな葛藤があったことを話してくださいました。

「もっとも大事なことは、なぜ研究者としてそのことを問うのか、その研究の根底にある一人一人の研究者の哲学や価値観を明確にすることだ」という言葉に共感しました。

私は修士論文の作成に悩んで弱気になっておりましたが、佐川先生の心のこもった温かいお言葉は、今後の大きな励みになりました。（博士課程前期 潘宇）

